

出町麻江社長（左）にスカーフの巻き方を教わる学生＝16日、八戸市



八戸拠点、アパレル会社「Mami」 菊柄スカーフ発売へ

八学短大と共同開発

八戸市を拠点とするアパレル会社「Mami」（出町麻江社長）が今夏、商品化第一弾のスカーフ「scarFFit+」（スカーフイット）を発売する。八戸学院大短期大学部（杉山幸子学長）との共同開発で、市民の花である菊をはじめ、自然や文化を取り入れた鮮やかなデザインとなっている。



今夏発売予定の「scarFFit+」

「八戸から世界へ発信する」というビジョンを掲げて昨年5月に開業したばかりの同社。地域に密着したデザインを検討する中、理念に共感した同大との協業が実現した。

昨秋、授業の中で学生たちが考案したデザインを基に、昨年度まで同大で講師を務めていた船山哲郎さん（現東北工業大ライフデザイン学部産業デザイン学科講師）が仕上げた。

スカーフは全4種類。菊の花をベースに、それぞれ種差海岸や花火大会、海や港といった八戸らしい風景をイメージしたデザインとなっている。

16日、同大で贈呈式が開かれ、デザインに関わった幼児保育学科2年生53人に商品がお披露目された。松橋ひよりさん（19）は「画面上のデザインが実際の物になったのを見るのは感慨深い。4種類どれも魅力的で心が華やかになる」と笑顔を見せた。

出町社長は「個性を表現し、前向きな気持ちを後押しするアイテムとして多くの方々に寄り添える存在となればうれしい」と話した。

8月までに自社通販サイトを開設して販売を始める予定。今後、空港やアンテナショップなどにも商品を展開したい考え。

（同屋敷順）